

■村松標左衛門(3代目伊兵衛) 豪農、本草学者。小野蘭山に師事して才能を発揮、藩の産物方に拔擢され、多くの業績。
むらまつひょうざえもん
・ ・ ・ ・ ・ 1762＝ 加賀藩十村組のひとつ能登国羽咋郡町居村で、代々200石豪農の家の2代目伊兵衛の子に生まれる。百姓のため公式には苗字は無いが、非公式には村松姓を名乗っている。

幼時から才能に抜きん出、勉学にいそしむ。

御蔭参流行・1771＝ 9歳：
田沼意次老中1772＝10歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1780＝18歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1781＝19歳：この頃、_京都の小野蘭山に入門したらしく、本草採集の旅の記述があり、

蘭学階梯・ ・ 1783＝21歳：_天明大飢饉の凶作で帰郷するまで、3年間師事。

田沼意次失脚1786＝24歳： 藩財政窮乏で翻弄時代となるなか、

初の横綱・ ・ 1789＝27歳：

ヲクスマン来日・ 1792＝30歳：_父が死去し、3代目伊兵衛となる。
松平定信引退1793＝31歳：
ヲシヅメ正月・ 1794＝32歳：翌年にかけて大凶作。
写楽・ ・ ・ 1795＝33歳：この頃、*「農業開闢志」の著述を始め、

昌平黌始・ ・ 1797＝35歳：_この年から採集した本草を押し葉として記録し始め、以後、北陸近畿を中心に広域にわたって採集旅行。
古事記伝・ ・ 1798＝36歳：_小野蘭山からの指導書簡始まる。

この頃、_屋敷内に薬草園を整備し、

アリカ船来航始1803＝41歳：母が死去。_「芳山堂」の名で薬種の製造販売を始める。

シヅメ船狼藉・ 1807＝45歳：
間宮海峡発見1808＝46歳：_この年まで蘭山からの指導の書簡が続いた。

・ ・ ・ ・ ・ 1810＝48歳：蘭山が死去
ゴロブシ拿捕 1811＝49歳：この年、藩の改作法復古政策。

この間、_藩老村井又兵衛長世の知遇を得て、
浮世床・ ・ ・ 1813＝51歳：_藩から蜜蜂飼養について問われ、受容回答するなど、
_度々富国方策を諮問されて報告書を提出するとともに、村井氏所蔵の貴重本に触れる機会を得る。

伊能測量終・ 1816＝54歳：_藩主から世子の部下になることを求められるも謝絶するが、

水野忠成老中1818＝56歳：*藩老村井長世に拔擢されて、再々開された藩の産物方植物主付となり、まず「八品目国産化」を提案。
群書類従完結1819＝57歳：_藩命で、関西視察し、後に「工農業事見聞録」を著作。この年、十村断獄事件。
この間、以前から願い出ていたベンガラ座経営にも挑戦するが失敗

蝦夷地直轄終1821＝59歳：_藩命で、御薬園設置調査に続き、朝鮮人参の栽培技術・薬用製造方法を調査のため、蘭山の孫に指導を仰いだ上、関東の産業視察旅行に出、「東国見聞覚書」「朝鮮人参御種培養方等見聞覚書」。この年、十村制度廃止に至る。

異国船打払令1825＝63歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1826＝64歳：*長らく取組み際立つ著作となった「馬療木鐸大全」がまとまってきたことから、藩に出版方願提出。
日本外史・ ・ 1827＝65歳：_藩老村井長世が死去したため、産物方と疎遠になって行く。
シボク事件・ 1828＝66歳：薬種について藩に新規出店願い。

天保大飢饉始1833＝71歳：_天保大飢饉の凶作。物産会に初出品し、蘭山弟子の山本亡羊に質問し回答を得るなど、勉学意欲衰えず、
高島砲術・ ・ 1834＝72歳：_農作物への猪・鹿の被害が大きく、藩老にあて上申書。「馬療本草」著作始、

・ ・ ・ ・ ・ 1836＝74歳：解毒薬販売不振で藩奉行所に願い出るも却下。
大塩平八郎乱1837＝75歳：この間、_それまでの経験を集大成すべく「救荒本草啓蒙」「村松家訓」を代表に多くの著作をまとめ、

蛮社の獄・ ・ 1839＝77歳：_「馬療本草」完稿。
勸進帳初演・ 1840＝78歳：_この年まで、7回物産会に出品。生涯かけた押し葉3300点「さく(月偏に昔)葉帖」を遺し、
天保改革始・ 1841＝79歳：*孫の保一郎がこれら著作について、藩に出版方願を提出してまもなく、没した。

清水隆久「百万石と一百姓」、